

三田市における外国につながるの 児童への日本語学習支援と交流促進



プログラム紹介動画

メンバー：大賀 清水 原 森田
大中 久保明 久保彩 水口

プログラム目的

外国にゆかりのある児童・生徒との交流を通じて、日本語の教育支援の方法を知り、異文化・多様性を理解する。

スケジュール

事前学習

- ①海外にゆかりのある児童の現状を把握
- ②イベント企画の発案・計画

現地活動（2025年2月）

- ①児童生徒を対象に日本語学習支援（学生2人に児童1人）
 - ・学校の宿題、SKIPの課題、N4,N5の学習
- ②日本の文化に触れた交流企画を実施（計4回）
 - ・節分の鬼の面作り
 - ・カードひっくり返しゲーム
 - ・折り紙遊び
 - ・日本伝統遊び（けん玉、コマ、お手玉、かるた）
- ③絵本活動（学生・児童）

事後学習：課題研究と活動ポスター作成

活動の様子



子どもたちは
日本の遊びが
大好き！

活動での気づき・学び

【学習場面】

日本語だけでなく、英語や算数、学校で必要な知識を身につけるために多くの壁に立ち向かっていることが活動で目に見えた。

児童・生徒は多くの人の力を借りつつ自分が持つ力を出しながら一生懸命学んでいることが活動を通して感じ取ることができた。

【交流企画】 対象：5歳児～小学生

こどもの様子：各活動のはじめのときは、遠慮したり、他のこどもの様子を伺っているようであった。活動の最後には、気軽に声をかけてくれるなど、楽しんで活動してくれた。

【事後学習】

日本語の難しさ

1. 主語・目的語の省略
2. 助詞が複雑
3. 文字の種類が多い

「やさしい日本語」
簡単な言葉にする、
文を短く、擬音語を
使わない



詳しくはこちら

「日本語学習支援」

- ・個々に合わせた支援
- ・学習面での躓き、解き方の支援、など
- 「教材の提案」：日本伝統遊び“カルタ”

読み手⇒集中力、日本語理解、読む力を鍛えられる

取り手⇒遊びながらひらがなに触れられる、自然と文字に興味を持つきっかけになる、集中力を鍛えられる



詳しくはこちら

今私たちにできること

1. ボランティアの継続

→多くの参加者が外国人児童と触れ合い実際勉強を教えていくという機会につながる

2. SNSの活用

→自身が活動した内容をSNSに発信することで多くの人に知らてもらえイベントを知らない人も参加しやすい環境をつくることできる

3. 施設内での孤立を防ぐ

→SKIPに新しく入った児童でも安心して学べること、一緒に遊んだりできるような環境を作っていく

4. 意識の向け方

→子どもたちの意識や興味を引ける企画や遊び、声のかけ方を考える



子どもにほんだ教室 SKIP 三田市国際交流協会
三田市国際交流協会は「世界の多様な文化を理解・尊重した多文化共生のまちづくりを積極的に進め、地域社会の活性化と国際化の推進に寄与すること」と目的としている。

今回の学び ～どう活かすか～

- ・幼稚園で、文字学習やコミュニケーションがついていけず、孤独や閉じこもってしまうなどのことがないよう、文化的なことを学べる教材や英語教育などを取り入れて、他の子どもたちが多文化について興味を持つような、環境を整えるように繋げる。

- ・将来子どもと関わる際、支援ニーズの把握が大切だと今回のGSを通じ学んだ。スキップでは、学習面での遅れや親子支援など様々な支援があった。支援は誰もが同じものを受けている訳ではなく、背景や生活状況、言語・文化・心理状態など取り巻く要素を踏まえそれぞれに合った支援をしていた。私はこの「困っている事を聞くだけ」ではなく、要素を踏まえ適切な支援を考える事が将来に繋がると感じた。